

# 環境保全と経済学

兵庫県・雲雀丘学園高等学校 2年 畑中 晶

2008年7月7日から9日にかけて開催された、洞爺湖サミット。しかし、これで一体何が解決され、どのような具体案がまとまったのだろうか。開催国日本の環境問題対策（二酸化炭素排出量の抑制や自然保護）に関する技術は、確かに世界でもトップクラスである。だが、実際は目標数値まで排出量を抑えられず、地球温暖化ガス排出権の不足分を、将来欧州諸国から買わざるを得なくなりそうである。技術が高いのにもかかわらず、それが実践に結びついていない現実を考えると、その背景には、科学技術と金銭取引とが複雑に結びついた「経済学」が潜んでいるように思われる。

科学技術が発達しているのにそれを満足に使用できないのは、おそらくコストの問題があるからだろう。原因のコスト問題を解決するためには、まず既存の経済学について考えていく必要がある。

既存の経済学（資本主義）の場合、どのようにして利潤を得るか、ということを目的にしており、需要と供給の均衡値を求めることになっている。ここで考慮されているのは、物の単価や人数であり、もちろん値段を付けることのできない物、例えば空気、土、水など、は考慮されていない。この経済学が論じられた時代は、現代のような環境問題や、環境を保護しなければならないという考えなどもなく、むしろこれらについては、考える必

要はなかったのである。よって、このような経済学を土台として引き継いでいる現代の資本主義体制も、必然的に「自然の値段」を考慮していないのである。

しかし、現代の市場は変わり始めている。二酸化炭素の排出量、つまり空気を巡り、これに価格が付けられて取り引きされているのである。なんと、既存の経済学では考慮されていない「空気」に、である。我が国、日本でも、京都議定書の基準を満たしていなかったということで、帳尻を合わせるため、欧州諸国から、未達成分の抑制すべき二酸化炭素の排出権を購入せざるを得なくなりそうなのである。従って、この事実を踏まえると、日本で環境に関する技術を行使するためには、空気、土、水等に対して価格を定めなければならないと思う。これらのことは、前述のように、既存の経済学では考慮されていない。もはや既存の経済学だけに依存するのは不可能なことだと考えられる。

ただし、私は既存の経済学を全面的に否定するつもりはない。というのは、現代がいくら以前と変わってしまったとはいえ、需要と供給の関係が根底にあること自体は変わっていないからだ。そのために、既存の経済学をベースにして、これを改良したり、新たな概念を加えたりしていかなければならないのである。

そこで私が提示したい解決策は、以下の通

りである。今まで考慮されていなかった自然や抽象物に対する価格を具体的に定め、これを既存の需要と供給のグラフの中に投じるのである。そうして、「自然の価値」そのものを経済学の中に取り入れ、ビジネスの一環とすることで、環境対策や技術に関するコスト問題はかなり解消されるはずである。

とは言っても、このようなことが実現し難い現状であることは16歳の私でも一応理解しているつもりである。さらに最近注目を集めている環境経済学というのもあるが、現代の社会が既存の経済学に基づいてすでに確立されている以上、実現にはかなりの時間がかかりそうである。しかし、このような既存の社会基盤を築いている我々個人や企業が、それぞれ自覚を持って、少しずつでも環境経済学を基盤とした社会作りに貢献していくべきだと思う。世の中を変化させる主体は我々一人一人であり、その一人一人の行動が、重要になってくるのである。

これからの日本社会は、我々若い世代に託されている。自分達の、単なる利潤のみを追求するような行動ばかりをとっていたら、自

然価値と経済の融合を実現することなど出来なくなり、環境が度外視され、さらには、ますます経済状況は悪化していくことになるだろう。今一瞬の利益を求めるのは、その時は良いかもしれないが、長い目で見てトータルに考えると、必ず大きな損害を被ることになる。延いては、誰も幸せにはならないし、誰をも幸せにすることはできないのである。

日本は、過去の公害から脱したように、世界に先駆けて、経済発展のみならず環境問題をも考えている。さらには、間違いなく日本は、これに必要な最先端の技術も持っている。我々は、この他国に秀でた能力を利用しない手はないのである。しかし、今やソーラーパネルで欧州に遅れをとり始めている実例が示すように、優れた技術があれば、自然に世界をリードできるかといえば、そういうものでもない。国益に対する長期的なビジョンを持ち、世界を相手に、戦略的に地球環境問題に取り組む姿勢が強く求められるのである。私は長期展望に立ち、環境と経済の調和を考えつつ、「環境経済の国、日本」を創っていきたいと思う。